

日本原子力学会核燃料部会

平成15年第6回運営委員会議事録

日時 : 平成16年3月31日(水) 10:30~12:00

場所 : 岡山大学津山キャンパス 自然科学研究科棟 第二講義室

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、小林殿(森副会長代理)、伊東委員、平井殿(緒方委員代理)、木下委員、北村委員、河野委員、大沢殿(坂井委員後任)、佐藤委員、杉崎委員、須田委員、寺井委員、林委員、日高殿(更田委員代理)、藤田委員、森山委員、三島殿(米田委員代理)

議事

1. 前回議事録確認

須田委員より前回議事録(資料1)は運営委員各位には既にメールにてご承認頂き、HPで公開されていることが報告された。

2. 平成16年夏期セミナー企画立案状況について

伊東委員から平成16年夏期セミナー講演プログラム(案)について資料3-1にて報告された。冒頭、4月末に夏期セミナーの案内を行うためにも、本日の運営委員会でプログラムの内容を確定したい旨の説明があった。

プログラム(案)

7月14日: 受付(15:00~21:00)

7月15日: 開講(9:00)

① 特別講演(3件)

- ・外国人講師(未確定)
- ・学会記念講演(2件)
「ジルコニウム水素化物および水素固溶体の機械的性質」(阪大)
「岩石型燃料を用いた軽水炉におけるPuワンスルー燃焼」(原研)

② 新型炉・新燃料開発動向(3件)

- ・「FBRサイクル実用化戦略調査研究、フェーズⅡの中間評価」(JNC)
- ・「低減速軽水炉の開発」(原研)
- ・「マイナーアクチノイド含有燃料の基礎特性」(原研)

③ 北海道の話題

- ・「北海道電力泊3号機の建設計画」(北海道電力)
- ・地元の話又は「幌延深地層研究計画の現状」(JNC)
- 地元の話については具体的には決まっていない。

7月16日

④ 原子力教育、その課題と方向

- ・基調講演
- ・パネル討論

⑤ 燃料材料、基礎研究(講演3件)

⑥ 軽水炉技術の動向(講演3件)

- ・「高燃焼度燃料の試験・研究: JNESの取り組み」(JNES)
- ・「BWRの炉心・燃料開発」(東電/GNF-J)
- ・「PWRの炉心・燃料開発」(関電/MHI)

7月17日: 泊原子力発電所見学

外国人講師については、木下委員から「7月19日、20日に別件でマスケ先生が来日される予定であり、スケジュールが合えばお願いすることが出来るかもしれない。」との紹介があった。また、山脇部会長から来年2月の核燃料国際会議開催にあたり、中国との間で正式な協力が結ばれていないこともあり、中国原子力学会の方と会う予定であり、核燃料に関する講演をしていただければそれも候補のひとつと考えたい。

「原子力教育、その課題と方向」についての基調講演とパネル討論の座長については、別途協議となった。また、パネル討論の中で、運営委員になられている先生方の大学については御紹介いただくことが確認された。

「燃料材料、基礎研究」のセッションについては企業中心で講演いただくこととし、各社1件候補を出していただくことになった。

3. 新クロスオーバー研究について

木下委員から新クロスオーバーについて資料3-2にて紹介された。内閣府、原子力委員会、試験研究検討会でプロジェクトとして開始する。テーマとしては二件が立ち上げられ、一つは照射による影響をDNA、細胞、ラットまでカバーして調べる。他は木下委員がプロジェクトリーダーを務め高燃焼度における核燃料のふるまいとして細粒化、リム組織等について調べる。具体的には照射により組織が変ることについて実験と線形数学を用いて総合的に調べることとしている。

4. 軽水炉燃料専門家会議2005年開催について

木下委員から軽水炉燃料専門家会議について資料4にて紹介された。プログラム委員会設立準備のために予備的な検討を行った。要旨は以下の通り。

- ・プログラム委員長には欧州、米国から各1名お願いする。
- ・プログラム委員には韓国からの参加をお願いする。
- ・会議日程は2005年10月3日～6日であることから、発表件数は100件、参加者270名を目標とする。
- ・予算300万円を寄付に頼る。技術紹介ブースを有料で用意する。
- ・大学が参加しやすいテーマ設定とする。
- ・プログラム項目には、ANSの標準的課題に加えて、原子力材料、発電所現場の運転管理技術、新型炉技術も含める。
- ・学会誌への転載することを検討する。プログラム委員には2～3名の方に査読をお願いする。本プログラム委員会については、国内幹事会のような形で早急に立ち上げる必要がある。また、欧州・米国・日本(アジア)の3極持ち回り開催について、昨年の日韓セミナー以降交渉した結果、韓国との了解が得られ、3極のMOUに韓国を加え新たなMOUを結ぶ予定で進めている。

5. 部会HPについて

河野委員から資料5にて報告された。

前回(平成15年12月18日)以降の改訂内容は次の通り。

- ・運営委員会の名簿の更新
- ・運営委員会総会議事録(9/24)
- ・運営委員会議事録(12/18)の更新

今後の予定は次の通り。

- ・核燃料部会運営委員会議事録(3/31)の更新
- ・核燃料部会総会議事録(3/31)の更新
- ・H16年度核燃料夏期セミナー開催案内
- ・リンク集
- ・メーリングリストへの部会委員登録

HPへ下記要望があった。

- ・夏期セミナーへの申し込みをHPから出来るようにしたい。
- ・部会報内容の掲載
- ・新クロスオーバー研究とリンクさせる。

6. 学会誌への連載講座について

小林殿(森副部長代理)から資料6にて報告された。5月号から連載開始する予定で、現在原稿を集めている。原稿作成後コメント等があること、トーンを合わせる等があり、かなり時間を要するので執筆者の方は早めに原稿をお願いしたい。

また、「最後のまとめ」の執筆については山脇部会長にお願いし、ご了解いただいた。また「燃料の研究開発」の執筆については東電殿、関電殿で協議していただくこととなった。

7. 講演者への旅費・謝礼について

須田委員から資料7にて学会内規が紹介された。現状、部会の講演者への旅費・謝礼は各部会で規定して運用している。部会予算や夏期セミナーの状況を考えると学会内規に準拠することは難しい。所属組織から旅費が支給される場合や講演者が運営委員の場合は支給しない等の意見があり、次回までに材料部会の内規を参考に庶務幹事が案を作成し、継続審議することとなった。

8. 運営委員交代について

須田委員から下記の運営委員交代の紹介があり、承認された。

- (JNC) 河野秀作委員→木原義之委員
- (四国電力) 坂井浩二委員→大沢雄二委員

9. H15年度決算について

須田委員から資料9-1にて報告された。収入の部は予算347,000円に対し、実績593,629円で246,629円の増収であった。増収の主な理由は夏期セミナー収入が予算70,000円に対し、実績316,629円であったことが大きく寄与している。支出の部は予算552,000円に対し、実績458,715円で93,285円の支出減であった。支出減の主な理由は部会報の発行回数を2回/年から1回/年に変更したことによる。また、資料9-2にて企画セッションの海外講師招聘費用について報告された。企画セッションでは急遽韓国の方が来日できなくなったが、間際であったことからキャンセルが出来なくなり、諸費用は報告の通りとなる旨説明があった。企画セッションの追加費用80,375円と資料印刷費39,130円をH15年度支出に計上したことが報告された。その結果、H15年度収支差額は134,914円(収入593,629円-支出458,715円)となり、H16年度に繰り越す旨報告され、承認された。

10. H16年度予算(案)について

須田委員から資料10-1にて報告された。収入の部347,000円、支出349,000円となった。H16年度予算については昨年の年末に学会から予算申請要請があり、山協部会長と森副部会長と相談し、H14年度実績をベースに申請した。学会から「配付金は暫定的にH15年度と同額とし、正式には6月の通常総会で決定する。また、支出については▲10%削減とする。」との通知(資料10-2)があり、通信費、発送費、会報印刷費については申請予算よりも▲10%削減となった。また、繰越金については前年度の134,914円を加え、合計で392,649円であることが報告され、承認された。

来年度の日韓中セミナーについて、学会予算が得られなかった場合の費用負担について、今後懸念されるとの意見があった。また、核融合工学部会の意見として他に中国との会議もあり本件に積極的になれないとのことである。日中韓セミナーについては継続審議となった。

11. 来年度核燃料部会役員と担当について

須田委員から報告された。

1) 部会長について

山協部会長の任期はH15年度末迄となっているが、運営委員の総意として山協先生に引き続き会長職をお願いし、お引き受けいただくこととなった。会員総会へ運営委員会推薦として提案し、正式に承認していただくこととなった。

2) H16年度担当について

資料11-1にて確認された。

| | |
|---------------------|-------------------------|
| 夏期セミナー幹事 | 北海道大 GNF-J |
| 庶務幹事 | 北海道大 東京電力 |
| 広報 (HP) (部会報) | 東北大学 JNC ジルコプロダクツ |
| 国際活動 | 副部会長 電中研 JNES |
| 国内企画 | 九州大学 電中研 |
| 評議委員 | 副部会長 寺井委員 |

評議委員については、部会長、副部会長がこれにあたることとしていましたが、山協部会長が関東・甲信越支部代表として評議委員に選出されましたので、寺井委員(東大教授)にお願いすることとなった。

12. その他

山協部会長から資料12-1にて日本原子力学会 部会・支部表彰精度規定について報告され、内容については次回運営委員会で審議することとなった。また、山協部会長から今後の核燃料部会のあり方について、例年行われている活動に加えて、燃料に関わる規制や基準について検討をする場としたい。また、定年を迎えられた有能な方々にご協力をしていただく場を設けていきたいとのコメントがあった。

13. 今後の予定

- ・平成16年度第1回運営委員会(5月上旬開催予定)

- ・平成16年度第2回運営委員会(夏期セミナー時)
- ・平成16年度第3回運営委員会と会員総会(秋の大会時 京都大学)

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)